第４回内丸地区再整備検討懇話会　議事要旨			
日時	令和７年11月20日（木） 10:00～11:15	会場	盛岡市中央公民館　１階　講堂
出席者	懇話会委員	財務省東北財務局盛岡財務事務所長 株式会社岩手銀行取締役常務執行役員 株式会社岩手日報社常務取締役統括・労務・関連会社・１５０周年記念事業担当 株式会社北日本銀行総務部長 株式会社テレビ岩手専務取締役 経営企画・報道制作・関連会社担当 企画経営局長 兼 技術局長 株式会社東北銀行執行役員 総務部長 東北電力ネットワーク株式会社盛岡電力センター所長 三田農林株式会社代表取締役社長 国立大学法人岩手大学理工学部教授 盛岡市副市長		
	盛岡市	都市整備部長 市長公室長 総務部次長兼デジタル推進事務局長兼選挙管理委員会事務局長 商工労働部長 建設部次長 都市整備部次長 都市整備部参事兼都市計画課長 企画調整課長 管財課課長補佐兼新市庁舎整備室長 経済企画課長 交通政策課長 市街地整備課長 市街地整備課主幹兼まちなか未来創生室長 都市計画課課長補佐、同課土地利用計画係長、同係員		
	ＵＲ都市機構	東北まちづくり支援事務所長 東北まちづくり支援事務所まちづくり支援課長 東北まちづくり支援事務所調整役		

（内容）

●協議事項等

(1)の項目について、資料１から資料６を都市整備部長が説明。

●質疑応答・意見・コメント

三田農林　　：今、本当に、若い方々が大学生までも含めて、ほぼ、盛岡のまちなかに来るという体験をしていない。例えば岩手大学の学生さんでも、卒業間際の方が、「北上川ってどこにあるんですか、僕はまだ４年間しか盛岡に住んでないので」と話した方もおられ、県立大学の学生さんなども、結構聞き取りの調査などに来てくださるが、「初めてまちなかに来ました」という方がほとんどだ。下橋中学校の、先ほど聞いていただいた説明を読むと、「無駄にデカい」とか、「活気がない」とか、本当に読んでいて、私は下橋中学校の卒業だが、当時はそのようなことは考えていなかったなと思う。また、内丸の場所を初めて知ったというコメントも書いてあった。そういうことも、どんな生徒さんも当時は、学区の町名が分からないというようなことは無かったのかなと思う。1982年に東北新幹線の開業があってフェザンができて、1981年か、試験車両が通っていたような時に、中学校にいた時に、やはりまちづくりの説明というのを当時の大人の方にしていただいた。駅前の区画がだいぶ変わるので、今の木伏緑地になっているところに、家がたくさんあって同級生も住んでいたが、「これから大きく盛岡が変わっていくので、みんなで協力していかなければいけない」という説明を、当時されたことを覚えている。冒頭の市長の御挨拶にもあったが、ほとんどの市民にとって内丸のプランというのは、中心部に来たこともない方々も多いという事で、もう関係の無いものになっているのかなというのを前提としてというか、悔しいが、認めていかなければいけないのかなとは思う。だが、中心部がきちんとしていないと都市が成り立たないと言いますか、経済も落ちていき、盛岡に訪れる方々も減っていき、結局は自分たちの問題になっていくのかなと思う。ここからは、今日の趣旨からは少し外れ、今後の議論ということかもしれないが、2050年というところから50年後というところに焦点が移っていきつつある中で、やはり交通について言及したことはとてもありがたいと思うし、未来のエネルギーや廃棄物についての言及というのはこれから必要だと思う。情報のやりとりや電力消費は今のところ増え続けるというのが色々なもので当然のようにされているが、それで良いのかという視点も必要になっていくと思う。内丸はもちろんそうだが、すでに建っているエリアを再整備していくということは非常に困難だが、減少社会で、もうまちの拡大がなく、むしろ縮小かもしれないという事であれば、どのエリアもそういうところは困難なところばかりになっていき、取り組まざるを得ないのかなと思う。大通りなどもそうだと思う。最近は熊のことが非常に問題になっているが、私は本業が林業なので、20年ぐらい前から都市整備部の方々ともお話している時なども、こういうことが起こるのではないのかなという話は、２回か、それぐらいしたことはある。やはりまちを少し広げ、盛岡だけではないが、広げ過ぎてきたのかなというのもあり、コンビニも成り立たないようなスッカスカのＤＩＤ地区になってきたというのと熊

	の出没というのは関連があると考えている。日本は７割が山で、中間の所というのが元々無いので、アメリカ型のまちづくりというか、そういうものの限界というのも、ここで出てきたのかなと考えている。今回のプランではイラストなどもあり、オープンスペースとかマルシェなど、そういう所の記述やイメージもされていて、とても良いと思っている。自分はずっと中心部に住んでいて、昭和の末期から平成の始めの頃にかけて、固定資産税などの負担に耐えかねて多くの人たちが本町辺りからや、内丸や内丸の隣接する地域から出ていったということはよく覚えているし、マンションがそれに取って代わり、商店街というのは錆びれてきた。これも、過去の流れとして、僕らは認識していかなくてはいけないことなのかなとは思っている。プランには商業や商店は成り立たないという記述や意見もある。自分たちも普段、中心部を活性化させるように、イベントなどを一生懸命、特に震災以降は取り組んできた。実際、毎日店を構えているよりもイベントやマルシェなどに出店したほうが、ずっといい状況にはなっている。ただ、この辺りも、今後プランを深めて技術的な検討に入っていく時に必要で、固定資産税や、都市計画税や、盛岡の税体系、できるところの税体系そのものについても、考えていかなくてはいけないのかなと思っている。とにかく50年後ということなのだから、部署が違うとかそういう話をしてもプラン自体が形骸化していくと思うし、出来上がったまちというのも、そういうことを放置していると外側から腐食していくのではないかなと思っている。
都市整備部長	:都市づくりという部分のお話でいけば、都市計画は、秩序ある発展ということを１つの目的、狙いとして、規制という手段を使いながらやってきた。確かに成長期においては、市街地を拡大していくという方向に多くのお金と時間をかけてきたというのはその通りです。ただ、その時代の変化とともに、今は、人口減少ということを踏まえていけば、高齢化もそうですが、コンパクトにしてくことが持続できることだという考えのもとで行っている。そのためにも、委員おっしゃる通り、中心部を強くしていくということが極めて重要なテーマであり、強くするということは何かと言うと、都市の基盤の整備と、民間の方々、市民の方々の活動が、しっかりリンクしていく、噛み合っていくということが必要で、そこには魅力というものが必要であると考えている。利便性も魅力だし、なんと言っても盛岡の場合は、歴史、自然というものが魅力なので、そういったものをしっかり引き出しながら、中心部を強くしていこうということが、この内丸プランの基本方針編の骨格になっている。その魅力の１つとして、我々受け持ちは都市整備、空間づくりだが、今の御指摘のような税制についても、１つのインセンティブとなりうるのかなと。中心部の方に魅力を寄せていく、そこで活動してみよう、何かしてみようと、そういったインセンティブになる可能性はあるのかなと、今、お話を聞いて思ったところである。これは都市整備部だけではなくて、トータルでまちづくりをしてくという観点で、色々御参考にさせていただきたいと思う。
岩手銀行	:私は、地区将来ビジョン懇話会から関わらせていただいている。このたび内丸プランの基本方針編案がまとまったということについて、歴代の関係者の方々の御努

	力には本当に敬意を表したいと思う。その中で２点ほど、意見というかコメントをさせていただく。１点目は、まちづくりという中長期の事業については、それぞれの当事者で、今、それぞれの立場でできることというのを、先延ばししないで確実に実行していくということが非常に大事だと考えている。そうした観点で言うと、今回、資料６の第５章５、ハードに関する取り組みの中に示されている「内丸緑地の活用」というところ、これはソフトに関する取り組みでもあろうかと思うが、時間をかけずに民間のソフトパワーを活用できる取り組みの１つなのではないかと感じた。「検討」という結びになっているが、検討する主体は市だとして、では誰が実践していつまでにそれを実行するのかという、主語というか主体を書き出せるかどうか、問われることとなると思う。その点ではノウハウのある様々な民間事業者がいる。盛岡市では様々な事業の統廃合や見直しを検討しているようにお聞きしているが、うまく民間活力を入れながら実践する方法というものを、共に考えていけたらと思っている。先ほど三田委員から、イベント、マルシェへの出店の効果に関するコメントがあったが、そうしたことにも活用できるのではないかと思う。２点目は、内丸地区将来ビジョン懇話会の頃から抱いていた感想にもなるが、色々な立場の方がおられステークホルダーが多いということで合意形成がとても難しいと感じてきた。こうした懇話会で市から御説明を受けていても、実際に当事者として出席された皆様が見ているランドスケープというのが、微妙に違うなと思いながらお聞きしていた。お願いというか、検討いただけないかということを言うと、今後、市民との間で最大公約数的な合意形成というものを図っていく段階に入るかと思うが、今、活用されている「盛岡市中心市街地デザイン戦略」といったものをさらにブラッシュアップし、可能であればデジタルの視点を加えていただくのがよろしいのではないかと考える。今は、ペーパーやスライドで、平面の情報に基づく御説明、ディスカッションがベースになっているが、これに「時間の経過」と、「立体的な見せ方」という要素を加えると、時間の経過とともに都市がどう変わっていくのかというのが見えやすく、同じものを見て議論できるということで、合意形成はもっとしやすくなるのではないかと。特に、若い世代の方々からのコメントの最後に書いてあるが、「他人事とせずに自分事として町をより良くしたい」というコメントがあったので、特にそういう世代の方々にとっては、何かツールを用いて、今の技術を活用したような御説明、合意形成を進めてはどうかと考える。
都市整備部長	：１つ目ですが、これからの都市、まちづくりで、ハードとソフトを含めてまちづくりと言わせていただくが、何か大がかりなものをセットしてそこでやりましょうということは、なかなかもう時代に合わないのかなと思っていたので、この場所ではこういうことができるのではないかというトライアルから始めて、小さな取り組みから始めて大きくしていくというイメージでこれからやっていきたいと思っているが、そのためには、委員御指摘の通り、民間の方々、ノウハウを持っていらっしゃる方々と一緒にやっていきたいと思っている。行政主導、行政は、空間の下地を作っていく役割はあると思うが、そこの上で色々な活動をいただく方々が、

	どうすればうまくいくか、楽しくできるか、続けていけるかということが大事だと思うので、そこにはやはり民間の方々のお知恵、あるいは一緒にやっていくということが必要だと思っている。２つ目についても、今、私どもの方でも地図データを立体化させるという取り組みを少し始めている。どこまでできるか、ということはあるが、ビジュアル的にも皆さんと共有できるものを出していくことは、合意形成上、非常に大事だと認識しているので、そこは御意見を踏まえて、これから整備方針編の具体的なまちのイメージというものを作っていく段階になるので、御意見を参考に進めさせていただきたい。
岩手大学（座長）	：三田委員のお話を聞き、このまちの盛衰に係わる歴史のお話で、当初のこの内丸プランづくりの入り口のころから見ると、ずっとずっと深まった、実感のこもったお話をいただけているように思う。これらを繋いでいくということができたらと、聞かせていただいた。内丸緑地の活用について、３Ｄ都市モデル、プラトーという国交省のプロジェクトも進んでいるように伺っている。そういうもので、市民への周知や御理解を進めていくこと。税制の問題も、まちによっては中心部に人を集めるための優遇措置を取っているところもあり、データ化したり見える化したりしながら進めていくと、さらに理解が深まっていく。先ほど、部長がお話ししていた、やれるとこから手を付けて動き出してみるということが、さらに市民の理解を促すでしょうし、参画を促すでしょう。そして、ここにお集まりの皆様が、高い理念を掲げて、盛岡、そして、さらに広くですが、そこをより良くしていこうとする、その内丸の姿を描きだして、ステークホルダーの方たちがプラスの力を合わせることができれば、未来が少し開けるかもしれない。混沌として未来が見えない時代と言うが、見ようとする創ろうとする努力が、今、求められている。盛岡のそうした、粘り強い、地域づくりの指向性、伝統には、新しいものを生み出せる可能性を強く感じる。是非こういう御意見を交わしながら、進めていきたいと思う。
東北電力	：８月にお聞きした素案から、修正点を確認させていただいた。パブリックコメントや中学生への説明の対応など、事務局の皆さんに対して本当に御苦労をお掛けしたのかなと思っており、案の取りまとめに感謝申し上げる。また、この整備方針編はこれから手続きに入るものかもしれないが、やはりこの方針をさらに生かしていくためには、次の整備方針編が、より具体的なところをしっかり、この基本方針編に基づいて作っていくということになろうかと思う。事務局の皆様からお話はあったが、是非とも市民の皆様方や若い世代の皆様の御意見を聞きながら、整備方針編を作っていただければなと思っている。
東北銀行	：金融機関としても、皆様と同じく、自治体の皆様、民間企業の皆様、市民の皆様と同様、人口減少というのは大きな一番の課題となっている。やはり旧態依然のままのまちづくりでは人口減少がどんどん進む。その中でこのようなプランを策定するということは非常に大きな意義があると思っている。またその中で、先ほどからの、内丸盛岡の魅力を上げていくということが１つのキーワードだと思うが、最近、新聞等で市の多くの事業の見直し等というニュースが流れていた。やはり、

	内丸プランというのは内丸なんですが、盛岡全体で言うと、盛岡内丸の魅力をどう生かして維持発展するかという中で、その事業の見直しと再生事業の見直しによる財政規律と整合性を図られることを望んでいる。実際に長い時間をかけて議論を重ねて、未来の魅力的なまちづくりを示したプランと考えている。今、古舘委員からもあったように、基本方針編が決定された後には速やかにスピード感を持って具体的な整備方針編について取り組んでいただけることを期待している。またあの冒頭の市長の御挨拶もあったように、官民協力してまいりたいと思うのでよろしくお願いする。
テレビ岩手	：前回の意見もかなり取り入れられ、何より中学生の意見というのが非常に素晴らしかったと思っている。希望としては、今回の３年生だけではなくて、今後も何かの機会に同じような形で、次年度、次年度と継続してこのような盛岡のまち、あるいは自分たちのまちをどうしていくかということの、授業なり、こういう講演なり、考える場を、発表できるような場が作られれば、ありがたいかなと思っている。また、先ほどから出てきているコンパクトなつくりについては、今なかなか１社で１つのビルを作ってそこで企業を営むというよりは、やはり複合的なものを目指すべきではないかなというのは、弊社の方でも考えている。それに伴っては、例えば近隣の企業様と連携をしたりして複合的な施設の中に、弊社も、Ａ社もＢ社もＣ社も入る、のような形で、コンパクトにできる。そういうことも目指していければなと思っているが、何より民間は今非常に大変です。財政的にも、経営的にも大変なところもあるので、そういうところの補助なり、あるいは支援などを、今後の整備方針編の方でもしっかりと議論をしていいただければ非常にありがたいと思っている。市役所の移転もさることながら、そこが１つの引き金になろうかと思うので、そちらの方も含めて、どのような対応をしていくのかしっかり御議論いただければと思いますし、とりあえず絵には、非常に素晴らしい絵が描けたと思っているが、先ほど、三田委員からのお話もあったように、腐らせないように、これをどう継続して、持続させていくかというところをきちんと、やっていければいいと思っている。
北日本銀行	:私は今年の４月から参加させていただいているが、内丸エリアについて、庁舎とかオフィスの集積ということで掲載されているが、庁舎とオフィスのみとなってしまうと、人が集まるという意味では相反することになってしまうと思うので、先ほど池田委員がお話した通り、複合的な、例えば我々の業界で言うと、本店に大型ショッピングモールを併設したり、イベントスペース、カフェを併設したり、ある銀行では支店の上にホテルを併設したりして、いわゆる柔軟な開発をしてるということもあるので、これから是非、柔軟な考えで、内丸地区、中心部を人が集まるエリアにしていだくような、次のフェーズでですね、考えていければいいのかなと思い期待している。
岩手日報社	:まずは、このような結果をまとめていただき、どうもありがとうございます。ちょっと感想めいたことになるが、ちょっとネガティブなことで申し訳ないが、先ほどもお話に出ていました市の事業の見直しということで、廃止、休止する、そのほ

	かにも2030年に財政調整基金がこのままいけば無くなってしまうということで、色々大型の事業というのはあるとは思うが、そうなってくると、この基本方針というか、内丸地区の再整備の基本計画というものの結構、根本に影響が出てくるのではないかと考えた。この後、ハードよりもソフト、とか、あるいは既存のものを、先ほどから出ているが、民間の力を活用するといったことがよりクローズアップされていくというか、していく必要があるのかなと思った。もう１点は、先ほども三田委員から熊の話などがあったが、結局、盛岡は自然豊かなまちというか都市で、その１つは、まちなかにおける川の存在というものがあるが、逆に、川沿いに熊が出ると、そういった面も出てきているような気もするので、そうした、中心部と周辺の関係性というものも、これからはもう少し丁寧に見ていく必要があるのかなと感じている。
盛岡財務事務所	：この７月に盛岡に着任してから、この計画を拝見させていただいている。盛岡にお世話になるのは学生の頃住んでいた以来だが、多くの皆さんが集い、多くの時間をかけてまとめられた、この内丸の将来の計画について、少しでも関与させていただき、この将来像に今後もできるだけ協力させていただきたいと強く感じている。
中村副市長	：今、各委員の皆様方から、色々御意見をいただいた。私は、事務局的な立場でもあるので、今の色々な御意見を踏まえて、今回のプランの検討は、言ってみれば総論編の部分なので、これから、具体にこれを踏まえて各論編に入っていくということになる。是非、今回の、この目指す将来像というか、ビジョンを皆様で、できるだけ共有しながら、各論の部分に活かしていければという考えなので、そういった意味で、是非また、引き続き御協力いただければと思う。また、事務事業見直し等について、若干、御心配の御意見も頂戴した。これについては、現在の、市の財政状況等を踏まえながら、今後、本当に必要な事業としてやっていくために、今時点で、見直せる部分が無いのかという取り組みなので、将来的に、内丸地区の再整備の取り組みも含めて、市としては、本当に取り組んでいかなければならない部分はしっかり取り組んでいきたいという、基本的な考え方ではあるので、こういった取り組みに、支障が出るようなことがないように、今後とも市としては、しっかり、財政も含めてやっていきたいと思っているので、是非また、引き続き、委員の皆様の御協力をお願いできればと思う。
岩手大学（座長）	：皆様に一言いただきながら、できたことと、これからのこと、極めて難しい課題を沢山抱えているということが、皆様の御発言の中に伺えました。その中でもなんとか絵を描きながら、まず方針までやってきて、これから先の整備計画に歩みだすことになります。「場づくり」といわれますが、都市計画がやれること、皆さんが関われること。内丸、さらには市において、公共の場づくりを合意形成を図りながら進めていくということ。個々の事業主体に関しての選択行動についても、その場を活かしながら更なる飛躍進展が望んでいけるようになればと思う。皆さんで方針の大きなところをまず共有できたように思う。更に大切なことを話し合える場が持てたということは、まず一歩進んだと言えると受け取めさせていただき

たい。それでは、いただいた御意見を踏まえて本日示された案を基にして策定を進めていただくということでよろしいか。それでは御意見を踏まえて次のステップへ進んでいただくようにお願いする。

●その他

(1)の項目について、資料７により都市整備部長が説明。

以上